



7月23日に設立総会が開催され、NPOエコパル化女沼が誕生しました。(県にNPOの認証を申請中)



化女沼の里山・里山探検隊では、地域の生き物調査や食文化の聞き取り調査が継続して行われています。

始動する化女沼のNPO活動

化女沼とその周辺の水田、里山は、渡り鳥だけでなく植物・昆虫・水生生物が豊富です。昭和五十四年から五十五年間に化女沼と周辺地域で行われた植物調査では、実に七百種以上の多様な植物が確認され、中には絶滅が心配される貴重な植物も多く見つかりました。

こうした豊かな自然環境を、次世代に引き継いでいくために、地元の住民が中心となって環境保全活動が行われ、ダム建設においても、貴重な植物の保護が同時に進め

られてきました。

その化女沼が、ガンの仲間「亜種ヒシクイ」の日本における最大の越冬地であることから、昨年十月、大崎市で二番目のラムサール条約湿地となり、観察に訪れる人も急激に増え、化女沼の注目度は一気に上がりました。

ラムサール条約湿地の中で、蕪栗沼での事例は高く評価されていたこともあり、一年足らずという短い準備期間でのスピード登録は、地元の人も驚くほどでした。これまでは、周辺の住民の



10月3日、ボランティアによる蕪栗沼クリーン作戦が行われ、地元の人や蕪栗沼での活動を支援している人が大勢参加しました。

そこまでたどり着くには、長い時間と多くの人の努力と葛藤があったといえます。「ふゆみずたんぼ米」は、今では自然に優しい米として消費者からの評価も高く、農業と自然保護の両立を成し得た画期的な取り組みとして各方面から脚光を浴びています。が、そもそも蕪栗沼での「ふゆみずたんぼ」への取り組みは、マガン保護の方策として始められました。冬期間、多い日には十萬羽を超えるマガンが集中するようになり、ねぐらや休み場を分散させるために周辺の水田に水を張って、その確保を図ることが考えられたのです。冬の間も水を張ることで及ぼす田んぼの変化や周辺の田んぼへの影響や、水田の小さな生物を生かすための農業・化学肥料を減らす栽培への取り組みなど、当然、初めて取り組む農家には大きな不安や戸惑いもありました。

ボランティアによる環境保全活動が進められてきました。が、ラムサール条約の中で唱えているワイズユースを実現するためには、幅広い分野で、より多くの市民を巻き込んだ取り組みが必要です。今年七月、湿地の保全と活用、環境との共生を進めていく母体になる組織「NPOエコパル化女沼」が設立され、いよいよ活動を本格化させようとしています。

今後、エコパル化女沼が中心となって、恵まれた交通の利便性を生かしてエコツーリズムの視点と、蕪栗沼で培われた手法を学びながら、自然と調和した豊かな地域社会を築くことを目指します。

月日	時間	内容	料金
11月21日(土)	14時50分	ねぐら入り観察会 (JR田尻駅発)	大人2,000円
12月19日(土)	14時50分		中学生以下1,000円
12月23日(水)	14時50分	ねぐら入り観察会 (農家レストラン食付)	大人3,000円
12月5日(土)	13時30分	2万羽の雁を観る会 (宿泊付)	中学生以下2,000円
12月6日(日)			大人9,800円
1月16日(土)	13時30分	□マン館集合	中学生以下7,800円

◎ 田尻グリーンツーリズム委員会 ☎ 39-2424

今まで田んぼは米を生産する場所としてだけ捉えられていました。しかし、今や田んぼにメダカやドジョウなど水生生物が増えたため、親子で生きもの調査をする機会もでき、地域の子どもたちの姿が田んぼに戻ってきました。田尻地域では、新たにNPO法人「田んぼ」の誕生や、以前から活動している「田尻グリーンツーリズム委員会」などの団体が、イベントなどを企画して、訪れる人との交流を深めています。このように、個人や企業も含めて多くの市民による、自然と共生したふるさとの田んぼを舞台にした活動が根付いています。

大崎に根を下ろすワイズユース

「化女沼」と「蕪栗沼・周辺水田の二つの条約湿地では、学校や既存の市民団体、さらには新たな活動グループが誕生して各種観察会や勉強会が開かれるようになりました。人と自然・地域のつながりを後世に伝えていくためにも、より多くの人が関心を寄せ、そして積極的に関わっていくことが大切です。渡り鳥に選ばれた地で、自然環境との共生と経済の融合を図る地域づくり、大崎市流ワイズユースの取り組みが着実に根を下ろしています。

月日	時間	内容
11月15日(土)	8時～12時	里地・里山祭り
12月13日(土)	13時～17時	ヒシクイ観察会と食べ物調査
1月1日(金)	14時～17時	新春化女沼観察会
1月30日(土)	14時～17時	ヒシクイお別れ観察会

※天候や季節の進み具合で催行日が変更になる場合があります
◎ エコパル化女沼 ☎ 28-3601

回	時間	場所	料金
第1回	11月29日(土) 12時45分～	八木山動物公園	大人400円 子ども100円
第2回	12月5日(土) 14時15分～	化女沼	1人100円 (保険料)

※第1回では野鳥観察の基礎を学び、第2回は実際に渡り鳥の観察をします。野外で活動しやすい服装で参加してください。
定員 35人
◎ 環境省仙台自然保護官事務所 ☎ 022-722-2874



NPOエコパル化女沼 理事長 木村敏彦さん

昨年、ラムサールの会議に出席して韓国から戻ってくると、マスコミに何度も取材を受けて、戸惑うほどでした。

この一年、私たちが取り巻く環境の変化が急激だったのですが、関係者の協力でやっと「NPOエコパル化女沼」を立ち上げることができました。ワイズユースとは、すぐに結果が見えるものではないけれど、自分たちの手でじっくり取り組んでいきます。

既に取り組んでいる生き物調査は、子どもたちに命の大切さを教えるためのよい機会となりました。こうした取り組みを広げて、次の世代につなげられる活動を展開したいと思います。



NPO蕪栗ぬまっこくらぶ会員で清掃ボランティアに仙台から参加した 木村吹江さん

十年前に蕪栗沼で初めてマガンのねぐら入りを見て、その時受けた感動があまりに大きかったことが、ぬまっこくらぶに入って、活動するようになったきっかけになりました。今回の清掃ボランティアのように、地元の人と一緒に活動することが、渡り鳥の生態を守るためにも大切だと思えます。これから、蕪栗沼と化女沼の二つのラムサール条約湿地を巡る観光ツアーなどを企画して交流を深めて、お互いを尊重しながら、よりよい相乗効果が生まれることを期待しています。